○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時００分）

◇　渡　辺　文　彦　君

○議長（稲葉昭宏君）　一般質問を続けます。

通告順位３番、渡辺文彦君。

（２番　渡辺文彦君　登壇）

○２番（渡辺文彦君）　通告に従って一般質問をさせていただきます。

私は、このたび地方総合戦略について、町にお尋ねしたいと思います。昨年国は、地方に地方総合戦略のビジョン及び人口ビジョンを作ることを求めました。それに対して、各自治体は、それを受けて作業を進めているわけでありますけれども、新聞等の報道によると、各市ですでにいくつか作業が始まっていることが報道されているわけでありますけれども、私が知る限り、松崎町においては、まだその報道がされておりません。そういう状況の中で、本当に町がこの問題に真剣に取り組んでいるのか、問わなければならないと私は考えているわけであります。

６月の議会において、私はこの問題を質問したわけですけれども、年内に策定を終了するということを述べられています。

町の税収は年々減り、地方交付税に依存する分が増えてきています。歳入に対して、経常的経費はどんどん増えるばかりで、町を元気にする投資的経費はだんだん減っているのが現状ではないかと思います。こんな中で、町で単独で地域の振興を図るのは大変難しい状況にあるのではないかと私は考えております。

国は、昨年地方創生大臣を配し、地方創生に関する予算を措置しましたが、各自治体に配分するお金は各自治体のやる気とプランの内容によって差がつけられる方向性が示されております。やる気とプランの内容が問われているにも関わらず、まだ十分な策定作業が進められないとすれば、本当に町はこの問題に対して真剣に考えているのかと、私は考えざるを得ないわけであります。

地方創生の目指すところは、地域社会が持続的に維持されることと考えます。いま存続の危機が懸念されているとき、この問題に真剣に取り組まなければ、行政の責任が問われることは明らかなことと思っております。これらのことを通告に従って、町長に伺ってまいりた

いと思います。

通告の内容に関しましては、８点ほどございます。とりあえず、その策定作業の進捗状況についてであります。

２点目は、創生会議のメンバーがどのような方で構成されているのか、この辺についてお伺いしたいと思います。

３番目が、総合戦略の委託業務でありますけれども、この辺が町民とどのように関わってくるのか、この辺についてお伺いしてみたいと思います。

４番目が、地域活性化に対してでございます。特に雇用の問題をどうやって町が真剣に取り組んでいくのか、その辺を問いかけてみたいと思います。

５番目は、企業との連携ということですけれども、町は、美しい村連合に参加することによって、協賛企業であります富士ゼロックスと接触をもっておりまして、その富士ゼロックスが松崎においてなにか事業展開をしたいという・・、地域貢献においてしたいということをなんか話がされています。そのことを松崎はどのようにこれから取り組んでいくのか。

また、いま国は企業版ふるさと納税というのを検討しております。それが、今後うまく展開していけば、個人版ふるさと納税に対しては、当町はおそらくかなり出遅れて、今後回復してくるのはかなり困難ではないかと思います。その中で、企業版ふるさと納税はかなりチャンスがあるんじゃないかと思うわけです。この辺に対して町の取り組みをちょっと確認してみたいと思います。

６番目は、人口ビジョンですけれども、このことは６月議会でも申し上げましたけれども、人口は自然に減る分と社会的に減る分があるわけですけれども、特に今回は社会的な現象に対して、どうやって人口の定着を図るか、確認してみたいと思います。

７番目に、人材育成ということですけれども、やっぱり地域を守ってくれる将来的な世代が形成されていかないと、地域は持続的に継続できないだろうということであります。この点で町は、どういう人材を育てて、この地域を維持していくのか、その辺を尋ねてみたいと思います。

８点目に、総合戦略のビジョンということでありますけれども、１から７までの状況の中で、町はどういう方向性をもってこのことに取り組んでいかなければならないのか。一本の筋としてのビジョンを確認したいと思います。

以上の点において町長にお伺いしたいと思います。檀上からの質問はこれで終わります。

（町長　齋藤文彦君　登壇）

○町長（齋藤文彦君）　渡辺文彦議員の一般質問にお答えします。

人口ビジョン及び地方版創生戦略について。①「進捗状況について」②「創生会議のメンバーについて」③「総合戦略委託業務について」④「地域経済の活性化について＝雇用の拡大をいかに進めるか」⑤「企業との連携について（富士ゼロックスといかに関わるか）」⑥「人口ビジョンについて。自然減に対する取り組みは。社会減に対する取り組みは」⑦「地域を持続的に支える人材育成について」⑧「総合戦略のビジョンについて」でございます。

①の進捗状況についてですが、人口ビジョン及び地方版総合戦略策定につきましては、平成27年３月補正予算で業務委託料として800万円を措置し、平成27年度に繰越をさせていただきました。７月に委託業者を決定し、人口の将来展望に必要となるアンケート調査を実施するとともに、９月に第１回目の会議を開催したところでございます。

②の創生会議のメンバーについてですが、各市町では総合戦略会議などが新たに設置され議論がされておりますが、当町におきましては、戦略策定後もまちづくりや事業の検証に関わっていただきたいことから、松崎町日本で最も美しい村推進委員会を活用し、総合戦略を策定することといたしました。

なお、メンバーは、松崎町商工会をはじめ観光協会、農業委員会など産官学金労言の関係者を入れた、33名で構成し、９月４日の第１回会議において総合戦略策定についてのご意見を伺ったところでございます。

③の総合戦略委託業務につきましては、７月に人口ビジョン及び総合戦略策定支援業務をプロポーザル方式（企画提案方式）で入札を実施し、審査委員会の審査を経て４社の中から、提案の優れていた株式会社ぎょうせいと契約をさせていただきました。戦略策定にあたっては、広く住民や関係者の意見を伺いながら、地方公共団体自らが起草することとなっていることから、会議を重ねて策定していくこととしております。

④の地域経済の活性化についてですが、雇用の拡大につきましては、これまでも回答させていただいておりますとおり、農林水産業の基盤整備や後継者育成対策、６次産業化の推進、商工業・観光業の振興を通じて、雇用の場と産業を創出してまいりたいと考えております。

⑤の企業との連携につきましては、現在「日本で最も美しい村」連合のサポーター会員である富士ゼロックス株式会社と連携して、空き家を活用したシェアオフィス事業を進めてお

りますが、これは町内の空き家を借上げ、田舎で仕事がしたいＩＴ企業などがシェアオフィス、サテライトオフィスとしての利用の可能性をフィールドワークや実証事業を検討するものでございます。

⑥の人口ビジョンについて、まず自然減に対する取り組みですが、国は出生率を2.07まで回復させ、2060年に約8700万人となる総人口を１億人程度確保するとしています。県も総合戦略で300万人程度の人口を確保するとしており、町もこれら戦略を勘案したうえで、目標人口を策定していくことになります。少子化の原因には、晩婚化、未婚化が挙げられますが、結婚や出産、子育てしやすい環境づくりや支援、婚活事業の開催や医療・福祉体制の充実が必要となりますので、今後の施策に組み込んでまいりたいと考えております。

また、社会減に対する取り組みについては、地域に留まっていただくためには、何といっても地域での安定した雇用の創出が重要であることから、④の雇用の拡大で回答しましたとおりの様々な施策により、雇用の場の創出・確保を図ってまいりたいと考えております。

また、移住・定住者を確保するために、地域おこし協力隊制度の活用や空き家や農地の情報等の提供や農林水産業への就業の支援を積極的に進めてまいりたいと考えています。

⑦の地域を持続的に支える人材育成でございますが、「まちづくりは、人づくり」というように地域づくりを担う人材を育成する重要性は十分に認識しております。役場の職員もまちづくりに関わる者として研修などを通じてスキルアップを図るとともに、現在、地域住民の参加によるワークショップを実施する際のファシリテーターの研修を行っており、地域の人材を育成していく体制がとれることを期待しております。

また、将来を担う子どもたちに対して学校教育と合わせ、地域活動や様々な体験への参加を通じて、社会で活躍するために必要な能力や資質を養う機会を充実させ、将来、地域に帰ってくるという思いの子どもたちを増やしていくことができればと考えております。

なお、現在、常葉大学の協力をいただき、棚田保全活動や地域学習を行っておりますが、松崎町での活動の機会を通じて将来地域を担う人材が育つよう願っております。

⑧の総合戦略のビジョンにつきましては、市町村の総合戦略は、国の総合戦略に加えて、都道府県の総合計画を勘案して策定することとなっていることから、国が掲げる４つの基本目標、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に加えて県の「「命」を守り、日本一「安

心・安全」な県土を築く」を踏まえて、町の戦略を策定することになります。

いずれにいたしましても、現在、総合戦略は策定中でございますので、今回のご質問も踏まえて進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○２番（渡辺文彦君）　一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可します。

○２番（渡辺文彦君）　いま通告順にしたがってお話をいただいたわけですけれども。進捗状況についてですけれども、私がこの質問を出したときは、まだ９月４日の会議のこともメンバーが決まったことも知らなかったもので、ここで挙げさせてもらったわけですけれども。メンバーもいろんな方が入っているということはあるんですけれども、この１回の会議でどのようなことをお話されたか、ちょっと教えていただきたいんですけれども。

○企画観光課長（山本　公君）　９月４日の会議でございますが、先ほどの町長の答弁の中にも日本で最も美しい村推進委員会を活用して、総合戦略を進めていくというようなことで申し上げました。

戦略を作って、それだけで終わりというような委員会ではなくて、できた以降もまちづくりに関わっていくという意味から、その委員会を活用させていただいているわけでございます。

メンバーでございますけれども、議会代表の方あるいは商工会、観光協会、あるいは区長会、あるいは老人会、農業委員会等々松崎町にある各種団体あるいは県の関係ですね。土木さんですとか、農林さんですとか、あるいは銀行さん、そういった関係の方々をメンバーにしまして、進めていくということになっています。

第１回の会議におきましては、総合戦略はこういうものですよというようなこと、国の方針ですとか、スケジュール等につきまして説明させていただいたりとか、あるいは景観ガイドラインを策定していくということになっておりまして、それらの部分についても内容あるいはスケジュールにつきましてご説明をさせていただいております。

現在、８月中にアンケートなんかを実施したわけですけれども、その結果を今後の会議においてお示ししまして、それぞれの代表の方からご意見を賜っていくというような形になるかと思います。

○２番（渡辺文彦君）　私は、この総合戦略に町民の意見を取り入れることは非常に大切なことだと・・、そのメンバー以外にほかの町民の方の意見をどうやって汲み上げていくかとい

うことが非常に大切だとは思うんですけれども、８月の終わりに200人ほどのアンケートの調査をされたということですけれども、このアンケートは・・、内容的にどんなことを問いかけたものか、ちょっと教えていただきたいんですけれども。

○企画観光課長（山本　公君）　アンケート調査、委員会だけでなくて、住民の皆さんの意見を求めるということで、アンケート調査を転入、転出者の方に意識調査、あるいは今後担ってくださる中高生を対象とした方への調査を実施しております。

　また、結婚・出産・子育てに関する調査、どういう状況であれば住み続けるとか、やっていけるというようなことを取っておりまして、現在まとめをしておりますけれども、どうしたら住み続けられるかというのは、やはり職と言うんですか、安定した雇用というものが必要であるということがかなり出ております。また医療関係、教育関係、そういうものも必要であるということが出ておりますけれども、現在、十分にはまとまっておりませんので、まとまり次第、委員会とか、また議会の方にもお示ししたいなと思っています。

○２番（渡辺文彦君）　とりあえず200名くらいという話ですけれど、もう少し数が多くてもよかったような気がするんですけれども、このアンケートの結果は、ビジョン作成に当たって業務委託されている部分もあるわけですけれども、その辺にどういうふうに反映されていくのか、その辺も伺いたいんですけれども。

○企画観光課長（山本　公君）　アンケートは結婚・出産・子育てに関する調査については400の方に・・。全て戻ってくればいいわけですけれども、そうではないですけれども。中高生の関係は200程度のものを求めています。それも全て戻ってくればですけれども、そうはいかないと思います。

　これらの出た意見を踏まえて、あるいは委員会の方での各種団体からのご意見を踏まえまして、松崎町としてどのような政策をもって雇用の拡大を図るとか、あるいは移住・定住を進めるとか、人口減少に歯止めをかけるとか、出産をこうやって増やそうとか、そういうのを今後組み立てていくような形になろうかと思います。

　具体的なものを、じゃあ何をやればというようなところまでのアンケートではないわけですけれども、それは団体の皆さんのご意見を伺いながら、委員の皆さんのご意見を伺いながら進めてまいりたいと思います。

○２番（渡辺文彦君）　今の戦略の件に関してですけれども、業務委託がされているわけですけれども、業務委託がプロポーザル方式という形らしいですけれども、いろんな提案を受け

て、その内容を審査して決めたということですけれども、どの辺を一番評価しているんですかね、このぎょうせいという方の業務委託に関して。

○企画観光課長（山本　公君）　４社の方からいろいろ提案をいただきました人口の現状分析ですとか、今後戦略を進めていく中で、松崎町としてどういうことを・・、全て業者さんにお任せするものじゃないものですから、松崎町の町民の皆さんの意見あるいは各種団体の意見を伺いながら作っていくということですので、全て業者任せということではないですけれども、松崎に対する想いですとか、なんと言うんですかね。夢と言ったらいいんですか、ほかの業者に比べてより内容的にすばらしかった。具体的にどういうことというのは、今ちょっとあれですけれども、ありましたので決めさせていただいたところでございます。

いずれにしても、丸投げという形ではないものですから、それは、今後皆さんの意見をお伺いしながら、やっていくということになります。

○２番（渡辺文彦君）　もちろん丸投げであっては困るわけですけれども、業務委託をする場合に、業者の方がこの松崎の現状をどれだけ把握しているかということが、この件に関しては非常に重要だと思うんですけれども、この業者は町にいろんな自前でアンケートの事前調査というのはされているんですかね。その辺をちょっとお伺いしたいんですけれども。

○企画観光課長（山本　公君）　事前に町民の皆さんにアンケートという形ではどこの企業さんもないですけれども、より具体的な内容と言うんですか、そういうものを示していただいたとか、あとは熱意というんですかね。非常に強い想いがあったという中で決めさせていただいたということでございます。

○町長（齋藤文彦君）　ぎょうせいの皆さんといろいろと話し合っていると、本当に何と言いますか、松崎町もかなり詳しく知ってまして、松崎に対する想いとか、ぼくらに熱意が伝わってきたので、これだったらいいなと思って決めたところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　そうやって町長がお会いして、この業者なら任せられるなんて業者なら、私たちも信用してお任せしたいと思いますけれども、この件に関しては、やっぱり町民の本当の気持ち、それを具体的な形で反映させていただきたいと思います。

そのアンケートの中で出てきた雇用の問題、これは次の流れの中でいきますと、４番目のところに入るわけですけれども、雇用が安定する。地域の活性化を考えるときに、必ず問題になるのは、人が地方から出て行って、寂れるから雇用をなんとかしなければという展開だと思います。だから雇用を何とかしたいなと・・。それじゃあ、雇用の場・・、今までの答

弁のいろいろの流れの中でみると、町は観光でやっていきたいという流れがあって、それに農業なりほかの産業を組み込んでやっていきたいという姿勢が示されているわけでありますけれども。この中で、雇用を・・、じゃあ、具体的に・・、もう抽象論で農業を振興しますとか、６次産業を進めますとか、そういう話ではないような気がするんですね、今。

もう来年・・、今年いっぱいである程度作成して、来年に向かって事業をある程度スタートさせなければならないとするならば、もちろんビジョンは必要なんですけれども、抽象的なテーマではなくて、もっと具体的に踏み込んでいった内容がもう求められてくるべきじゃないかと思います。

この辺で、農業・・、農地もやっぱり有効な利用法ということで町長もおっしゃるわけですけれども、その辺に対して、どういう形で農地が有効に利用されているか。私も農業委員をやっていますので、実態がわからないです。正直言って。町の政策が本当にそれがいきているかどうか、確認できないんですね。農地がどういうふうに有効利用されていくのか。町がどういう方向で、この農地を利用していこうかという、それがよく見えてこないんですよ。その辺に対して、考え方をお伺いしたいと思います。

○産業建設課長（斉藤昌幸君）　農地の利用に関しましては、やはり作り手と作り手、いわゆる担い手が多く確保されなければいけない。そのためには農地を大きくしなければならないということで、いま現在、農地の中間管理機構において、貸し手と受け手のあっせんというんですか、その辺の利用促進はしております。

ただ問題は、点在していたらどうしようもないもので、集約化という問題もあるわけです。やっぱり農地を最大限利用するには、集約化して広い大きな面積でやることが効率的であり、生産性が向上するわけで、そのためにも、その広い団地の中でやはり機能的に営農するには、基盤整備も必要となるわけでございます。鮎川の話が前の、その前の議員さんの質問の中でも出てきたわけでございますけれども、鮎川に関しましては、当然のことながら、まだまだビジョンの段階ではございますけれども、伊豆縦貫の発生土の利用ということも併せて、有用な農地を確保し、基盤整備を行い、仕事がしやすい広い面積で、少ない担い手で大規模な経営ができるようなにしたいというような考え方で進めているわけでございます。

いずれにしましても、担い手を確保して、かつ大規模な団地化で営農することが松崎の農業にとっても今後進めていくべきビジョンの姿であるのではないかと思うわけでございます。

ただ、現状はなかなか小規模な農家の方の寄せ集めという実態があるわけでございますけれども、耕作放棄地の解消も含めて少しずつ進めていきたいなとは考えております。

○２番（渡辺文彦君）　私も当然土地の集約化ということはやっていかなければならないことだと思っています。ただ、考え方が私とちょっと違うところは、大規模化ではないと思います、松崎の場合は。小規模の経営者が高収益を上げられる農業をやるのがおそらく理想だと私は考えています。その中で、町は、今までの事業計画の中で、認定農業者の数、新規就農者の数をある程度目標を出しているわけですけれども、認定農業者の数が確か25名くらいだったと思います。新規就農が５名くらいの規模で予定されていたと思うんですけれども、そういうレベルで本当に町は活性化するんですかね。お願いいたします。

○産業建設課長（斉藤昌幸君）　確かに認定農業者の数、目標がいま議員がおっしゃった20何名ということで、現在は17～18人ということで非常に少ないわけでございます。やはり担い手が数多くあることは非常に松崎の農業にとっては喜ばしいことですから、それに向かって新しく新規就農で来る方もおられますので、その方が担い手農家である認定農業者になることは非常にすばらしいことですので、ぜひとも我われの方としましても新規就農を確保して、渡辺議員の言っていたとおり、小規模な営農でも自分で食っていけるだけの農業となるように少しでも支援をしていきたいと考えているわけでございます。当然のことながら、繰り返しますけれど、担い手である認定農業者の確保は、今後の松崎の農業に関しましては、非常に重要な一つの柱であるということは認識しているわけでございます。

○２番（渡辺文彦君）　いま認定農業者とか、新規就農者の点を話されているわけですけれども、現実的には非常に数は少ないわけですね。その中で、町はそのことに対してある程度の予算措置もしながら、行政を進めてきているわけですけれども、実際の数字が伸びていかないということは、やっぱり計画自体に若干齟齬があるのかなという気がするんですけれども、この辺はいかがですかね。

○町長（齋藤文彦君）　農業というのは非常に難しいもので、来て来年から稼げるというものではなくて、それなりの経験が必要だと思うわけですけれども、それで松崎町は非常に苦労しているわけですけれども、ちょっと反問権ではないですけれども、渡辺議員が考えている松崎町をこういうふうな農業にしていけば、それなりの形ができるというのがあったら、ちょっと教えていただきたいと思います。

○２番（渡辺文彦君）　私は、このあいだの議会のときに自分の農業に対する見解を一部述べ

させていただいたわけですけれども、やっぱり基本的には、今の農業のあり方として、米で食っていくのは非常に困難です。今の農業の形態では。だから、ぼくは理想を申し上げれば、町の土地の半分以上を埋め立てて畑にしてもらいたい。そういう事業計画を作っていただきたい。そこで、食える農業、収益の高い農業をやろうと。ただ問題は、町長もおっしゃるように、農業というのはすぐにできないです。明日からかかって、明日から収益があがるというわけにはいかないです。経験、技術、非常に重要になってきます。その辺はやっぱり・・、いま新規就農の来た方は、明日からこの事業をやるからといってもくれないわけですね。新規就農で150万円の補助金はあるかもしれないですけれども、それは５年でそのフェーズに乗ればいいんですけれども、フェーズに乗らなければそこで終わってしまうわけですね。

だから、もっとその辺で継続的に支援するような体制がないと、町の中にも。農業もほかの産業もそうなんでしょうけれども、継続するのは難しいのかなというのがぼくの考え方です。いいですか、こんなもので。

○町長（齋藤文彦君）　いま合同会社さとづくり総合研究会というのが案で、これはＮＰＯがやっているわけですけれども。これは南伊豆と協力してやっているわけですけれども、松崎町に来ていただいて、そして、松崎町の農業を変えていってもらって、いろいろ松崎町で稼げる農業というのがいろいろあると思うんですけれども。それを体験してもらって、このくらいやれば、このくらい稼げるぞというようなやつをいま進めているところでございます。

それでこれを徹底して、松崎町に来たら、これだけのこれとこれとこれをやると、いくらいくら稼げるよというようなやつを、メニューを今・・、あるわけですけれども、農業振興会の方と今に合うようなやつをちゃんと作り上げていきたいなと思っているところでございます。

それで、地域おこし協力隊の方がいますけれども、地域おこし協力隊の方がある程度松崎町に住めるにはどうしたらいいかというようなことがございまして、この中で、半農半Ｘというのがあるわけですけれども、自分は農業である程度の自給自足の生活をして生活をたてると。そして半分は・・、これは塩見さんという方が言っているんですけれども、あとは自分の趣味をいかして生計を立てるというようなことがあるわけですけれども、このようなことをうまくできればいいのかなと思っています。

私は、地域おこし協力隊の皆さんがいま松崎町に４人いるわけですけれども、１人は３年

後に石部に住んでいるわけですけれども、地域おこし協力隊の皆さんが３年後にみんなパッと松崎町から出て行ったら、松崎町は最悪だと。この地域おこし協力隊の方が３年以降も松崎町に住めるような態勢を・・、やっているわけですけれども、そのようなことができないとうまくないと思っていますので、そういうことをやっていきたいと思っているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　いま町長が答弁されたように、やっぱり地域交流で来られている方が出ていくような松崎は魅力のない町だと思いますので、これはできれば定着するような方向のまちづくりをされなければいけないと思います。

それで、人口ビジョンのことにも関わってくるわけですけれども、農業の問題ではなくて、移住を考えたときに、基本的には農業というイメージがあると思いますので、続けて話をさせていただきたいんですけれども、いま農業でやろうと思って、こういうビジョン、こういう組み合わせでやれば食っていけるよということを示されたとしても、やっぱりたまに松崎で発信された情報、インターネットかなんかで見た情報とか、たまに町に足を運んでもらって見ただけで、本当にこの町で食っていけるのかなというところはやっぱりかなり疑問だと思います。

そういう中で、ある一部の町民の方がシェアハウス的なことで体験農業、体験住まいみたいなことで取り組まれているわけですけれども、そういうことに対して積極的に支援することも重要じゃないかと思うわけですけれども、この辺はいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町で農業で稼げるといったら、本当にお米は厳しいと思いますので、桜葉が一番いいと私は思っているわけですけれども、やっぱり今まではどの人にも平等にというようにやってきたわけですけれども、これからは松崎町にこれが絶対必要だと本気でやっているところには、それなりの援助をするような形にしていかないと、松崎町はなかなか難しいと思っていますので、そのようなことを考えながら、やっていきたいなと思っているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　今の答弁はよくわかるんですけれども、このシェアハウスなんかに対しての積極的な関わり合いというのは、町は考えていませんか。そのシェアハウスに対しての・・。

○企画観光課長（山本　公君）　先ほど町長からありました民間の方、さとづくり総研ですか、いまシェアハウスというようなことで、国のお金なんかも活用して、新規就農ですと

か、お試し農業という形で、いっぺんに入って来るというのはなかなかないと思うんですね。体験ですとかをやって、あるいは研修をやってだんだんこっちに・・、可能性を探って移り住んでくるという形になると思いますので、そういった準備段階の施設として整備をしていますので、町の方にも相談に来ている部分もございますので、先ほど町長の答弁にありましたように、そういう方については積極的に応援はしていきたいとは思いますし、ほかの団体も、そういうやっていくんだとようなことであれば、そういうものには支援をしてまいるということでございます。

○町長（齋藤文彦君）　富士ゼロックスさんとの委託事業、シェアハウスがあるわけですけれども、シェアハウスを貸してくれる家を探すのが非常に大変で、いろいろお願いしていくわけですけれども、「いや、貸せられない」というようなことがたくさんありまして、非常に苦慮しているところでございます。やっぱりいろいろ相続問題とかなんとかが絡んでくると、兄弟がいますと、ああでもない、こうでもないということで・・、初めは調子よくいったなと思ったら、途中から大変になったりして、非常に苦慮しているところでございます。

だから、本当に空き家がいま地域おこし協力隊が調べて、139くらいですかね。あるんですけれども、その一つも貸してくれるところがないということで、ほかの市町にも聞いたら、やっぱりどうしても「おらのところもないよ」というような話で、なんで空き家があるのにうまく貸してくれないのかなというのがあるわけですけれども、やっぱりＤＩＹ方式ですか、借りる家を借りたい人が借りる家を自分で修繕して、その代わり家賃を安くしてもらうとか、お盆に松崎に来たときには、まつざき荘にタダで泊めるとか、いろいろな方法があると思うわけですけれども、そのようなことをやっていかないとなかなか貸してくれる家がありませんので、その地域おこし協力隊が松崎に来る場合も、やっぱり家賃が３万円以下の家じゃないと住めないというようなことを言っていますので、そのようなことを勘案しながらやっていければ、それなりに増えてくるのではないかと思っているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　いま町長がおっしゃったとおり、いろんな細かい取り組みがあるわけですけれども、町がここまで援助できるよとか、住宅のリフォームに関してここまでならば、このくらいの金額ならば補助できるよとか、そういう具体的な数字を示されて、その地域の協力を得るという必要性はあると思うんですね。それがまだみえないんじゃないかと、町民の方に。

空き家に関しても、いまほとんど貸してくれる人がないと言うんですけれど、ぼくがたま

たまあたっているところは、「借りてくれるなら、いつでも借りてください」と言うんですね。たまたまこれはほかの人に「こういう家があるけど、どうですか」ということで紹介したんだけれども、そこの家が散らかっていて仏壇があるということで、この話はまとまらなかったわけですけれども、そこの持ち主の方は、ほかの方でもあればいつでも貸して欲しいと言っています。

それが、町の方では把握できないとすると、情報の収集の仕方に問題があるのかなと私は考えるわけですけれども、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君）　それはやっぱり熱意が足らないところがあると思います、みていて。自分も２人地元に私の紹介で住んでいますけれども、どうも来る人が、ある程度親戚とか、つてを頼ってきて、この人なら大丈夫だという人だったら貸せると思うんですけれども、なかなか信用がないとかなんとか、いろいろあって難しいところがあると思うんですけれども、そのようなことをやっていく必要があると思っていますので。

○２番（渡辺文彦君）　いま町長がおっしゃったように貸す側の方は、どこの人かわからない人に自分の家を預けられないわけですよね、おそらく。その辺に対してちゃんとこういう方は町が保証しますよみたいな制度が必要なのかとぼくは思うわけです。貸す側も安心して貸せられる。借りる方の人も身元もはっきりしているというような状況を町はやっぱり整備する必要が・・・、ないとその流れは変わっていかないのかなと・・、いくら家があっても、借りる方もいないし、また、定住したくても定住する人が増えないのかなと思うわけですね。

情報の提供は大切であるんですけれども、情報を受けた内容がそのまま町にきて反映できるようなシステムづくりをしないとなかなか移住も進まないのかなというのが私の感想なんですけどね。

○町長（齋藤文彦君）　移住・定住ガイドブックを作ることになるわけですけれども、先ほどそのような渡辺議員が言われたようなことをちゃんと松崎に来るとこうなりますよと、これを見ればすぐわけるように作成するにはもうちょっと時間がかかると思うんですけれども、誰が見てもこれだったらいけるなというようなガイドブックみたいなものを作成するようにしたいなと思っているところです。

○２番（渡辺文彦君）　町長がおっしゃったように、誰が見てもこの町はこういう町だとはっきりわかるようなそういうビジョンづくりも・・、できたものを早く、早急に提供していた

だきたいと思います。

これにずっと関わっていると、ほかにいけなくなりますので、次にいかせていただきます。

先ほどちょっと富士ゼロックスに話がいったんですけれども、檀上で私はちょっと話したんですが、企業版のふるさと納税を国で検討されていますよね。それで、富士ゼロックスさんみたいなことがうまく町でできれば、ほかの企業との連携もできるのかなと・・、その中で、企業からのそのふるさと納税を獲得できるのではないかなと思うんですけれど、その辺の取り組みに関して何か話が進んでいますか。

○副町長（佐藤　光君）　ふるさと納税の企業版につきましては、菅さんが現在検討させているということで、報道はされていますけれども、まだ具体的にこの制度が確立しているわけではございません。ただ、情報として受けているのは、やはり地方創生に資するような地域の取り組みに対して企業を支援する。いわゆる企業の場合ですと、投資的な発想になるかと思うんですが、その投資によって地域が元気になって、あるいはその企業のイメージアップにもなるということで、企業の一つの活動も活発になるというお互いがウイン・ウインになるようなことをイメージしているのかなというふうには概略解釈しております。

そういった趣旨から申し上げますと、現在富士ゼロックスさんといま提携してやろうとしていることがまさしくそういうようなことでございまして。富士ゼロックスさんもそういった情報の一つのプラットホームみたいなものを松崎に作りまして、そこから起業をしていただくような可能性を地域の資源を使って情報を集積しまして、そういう起業活動をしようというようなことで考えておりますので、そういったことが派生していけば、そういったものに、目的にも合致してくるのかなというふうには思います。ただし、そもそも制度がまだ確立していませんので、そういったものを動向を見ながら、今後ゼロックスさんと一緒にやっていければなと考えています。

今後は、ゼロックスさんと松崎の情報発信拠点にしようというような取り組みをまず最初にやってみようというようなことで、いろいろ試行錯誤しながら検討していますので、その都度いろんな成果を皆さんにご報告できるようになりましたら、そういうようなものをお知らせしたいなと考えております。

○２番（渡辺文彦君）　この企業版ふるさと納税は私も一応まだ国も検討している段階ということは承知しています。この流れはおそらく進むと思います、ぼくは。そのときに、こうな

ったからではなくて、今から・・、流れがみえているわけですから、ある程度。準備していつでもそれを受けられる体制つくりをやっていただきたいということです、私の要求は。

○副町長（佐藤　光君）　まさしくそのことをいま申し上げたつもりでございます。そういったものが、いまゼロックスさんとやっていることが、そういったものに合致してくるんだろうなという認識でいまご答弁をさせていただいたところでございます。

ですので、制度の動向をにらみながら、そういったものが上手に活用できるように、なっていけばいいかなと思いますので、合わせて、また、富士ゼロックスさんのみではありませんし、また、いろんな企業さんも可能性としては秘めていると思いますので、それでもやっぱり実績がひとつありませんと、そういったものも発表できていきませんので、実績づくりをしながら、多様な企業の皆様にもお声掛けすることが理想的かなと思います。

○２番（渡辺文彦君）　富士ゼロックスの件に関してとか、また、企業版ふるさと納税に関しては、これからの展望を待ちたいと思います。

６番目の人口ビジョンの中で、社会減について今日はお話したいということを言ったわけですけれども、実際自然減は対処できない面があるわけですけれども。社会減に関しては、人が出て行くのを止める、なるべく抑制するとか、入って来る人を増やすということで、バランスはある程度取れると思うんですけれども、今回南伊豆町で杉並区と特養の施設を造られましたね。それが今回杉並区がほとんど施設の管理維持費を出すと、雇用は町に任せると、それで、町経済効果はおそらく２億から３億円くらいになるのではないかというような話がされているんですけれども、町もこういうのを真面目に考えた方がいいのかなとぼくは思うんですけれども、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　それは、ずっと佐藤議員が追求してきた問題で、いろいろ南伊豆の方と・・、町長とも話をしているわけですけれども、なんかいい方にいきそうですので、それなりに注視する必要があるかなと思っています。

それで、やっぱりこれは総合戦略にも関係しますけれども、やっぱりも儲かる仕組みを考えるってことで、人口が減っていくもので、それを徹底的にやりたいなと思っている。

人口問題というのは、本当は国の問題で、国がもう人口は減少するというのは何十年も前からわかっていたわけで、国がちゃんと方策をとるのが本当だと思うわけですけれども、なんか下の方に押し付けて、本当に厳しいなと思うわけですけれども、やっぱり松崎町が・・、先ほど長嶋議員にも答えたわけですけれども、地域の経済性をもたらすには、個性

の明確化とデザインだと思っていますので、総合戦略の中にも景観のガイドラインが入っていますので、このようなことからやっていきたいなと思っているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　同じ質問を健康福祉課長にお尋ねしたいんですけれども、なにか制度的な問題がなんかありますか。

○健康福祉課長（高木和彦君）　施設を新しく作ったりすることについて、やはり今の人口の状況等をみながら判断するわけであります。松崎町はすでに40パーセント以上の高齢化率になっていますけれども、今後65歳の方が75歳を超えて、そのあたりから介護の要介護の方の数というのは、だいぶ減っていくという見込みがあるものですから、いま、西伊豆町、松崎町の中で特別養護老人ホームは作る必要はないと考えています。これは、人口の動きとかを推定しての上の推測です。

○２番（渡辺文彦君）　今の健康福祉課長の答弁だと、とりあえずは落ち着くんじゃないかなという言い方なんですけれども、南伊豆の場合は、80床に対して町民が50床、杉並が・・。

（健康福祉課長「杉並が50で・・」と呼ぶ）

○２番（渡辺文彦君）　杉並が50でしたか、町民が30でしたか、40ですか。そういう流れらしいんですけれども、これは町民が別に入らなくてもいいと思うんですね。ぼくは。例えばどこかに・・、松崎は過去に品川区とも提携があったわけですけれども、品川区の特養、100パーセント品川区の方であっても、品川区が全部財源を補助してくれて、町の雇用が生まれるならば、これはぼくは別に問題ないのかなと・・。最後に対しても住所地特例とかなんとかあるんじゃないですか。それもなんか後期高齢医療に対してもなんか適用されてくるような話を聞いていますので、何ら問題ないのかなという気がするんですけれども、どうですかね、この辺のお考え。

○健康福祉課長（高木和彦君）　これは全国的にいけば、これから75歳以上とか、要介護の方は増えますので、各地方に介護施設を置くという考えは一つの考えだと思います。ただ、いま松崎町、西伊豆町にすでに施設がある中で、また新たにそういう施設を作るということに・・、その施設に働く方の雇用の問題、今度の杉並区のものは50床は杉並区の方、40床は賀茂郡の方にという話になっていますので、そこができることで、だいぶ松崎町ですとか、西伊豆町の待機者なんかも入ることができるものですから、全体的、賀茂郡全体の要介護者の数をみて、今回の杉並区ができたことで、そろそろ落ち着くんじゃないかなとみております。

外からの雇用ということは、それはありますので、いま作れば、それはそれで雇用の場は生まれるかもしれませんけれども、将来また10年、20年したときには、その施設とも取り合いになるんじゃないかなというのがあります。

○議長（稲葉昭宏君）　時間を延長しますか。

○２番（渡辺文彦君）　お願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君）　５分延長を許可します。

○２番（渡辺文彦君）　時間がなくなってまいりましたので、次にいきます。

７番目に、地域を支える人材育成ということなんですけれども、地域を持続的に支えてくれる人間がいなければ、地域は持続的に継続、つながっていかないわけですよね。それは当然なことだと思います。

そういう中で、ジオパークなんかに取り組んでいる方々は、若い世代が地域に対して関心を持っていい流れができてきたというような方向性が示されているんですけれども、ぼくもこのあいだある雑誌を読んでいましたら、筑波山の方の小さな町だったと思うんですけれども、その町は、英検２級を全部中学生までの子どもらが、中学を卒業するまでに全員が英検２級を取ろうと、そのために町が支援しますよという政策を打っていました。それは、この町で受けた教育が自分らにとって誇りになるんだと。社会に出て行っても、それが自信になるんだということで、すごく自分もこういう取り組みはいいのかなという考え方をもったわけですけれども、そんな・・、子どもらがここで教育を受けたことに対して、誇りを持てるようななんか政策を打つこともまた必要なのかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　私の親父が余命が短く大きくなったときに、車で走っていったら、ある松林がありました。親父が「これはおらが小学生の卒業の記念に植えたんだよ」というようなことがあって、ピンとくるものがあったわけですけれども、教育委員会の方にもいま小学生、中学生が松崎町をどう考えているか、君たちはどういうふうな松崎町にしたらいいだろうかというようなやつを討論会をやるといっていますので、そのようなことをやっていきたいなと思っています。

それで、ちょっと時間が長くなるかもしれませんが、依田町長のときに、まちづくりは人づくりだということで、私たちも向学な講演をいろいろ聞いたわけです。それで、向学なって非常に高名な人のですね。その中には本当に高額な金額が集まっていると思うわけですけれども、話を聞いているときには本当になんと言いますかね、アドレナリンが分泌して「お

れも明日からまちづくりに参加する」とかなんとかってがんばるわけですけれども、講演が終わって家に帰るまで自分の好きな音楽を聴いていって、家へ帰ると・・、素晴らしいけれども、今の生活も捨てたもんじゃないなというようなことで、繰り返しがずっとぼくはあったようなことがあるわけですね。

それで、あるとき、ちょっと後ろを振り向いたら、ほとんどの方が長男だと。それで、私はそれでは惣領の甚六なんていうようなことを言ったんですけれども、今は若干違うと思うんですけれども、ぼくらのときは惣領は家があり、土地があり、それなりの生活ができているから、そんなに積極的に改革しなくてもそれなりに生活ができたように思うわけですね。だけど、今はそうはいきませんので、本当に人づくりというのは大切だと思っています。

それで、ぼくらは伊豆半島が伊豆沖地震で大打撃を受けたときに、当時の石川県知事が新世紀創造祭というのをやって、火の出ないところには費用はやらないよということで立ち上がったことがあるわけですけれども、そのようなことでやっていければいいのかなと思っているところでございます。

○教育長（山本正子君）　いま議員からご指摘があったお話、ありがとうございます。地方での特色ある教育が人口減少を防ぐということは普段から私も思っております。

先ほど町長の方から未来を担う子どもの意見を聞くというお話がありましたが、今年度検討して来年度実施できればいいというふうに企画しています。

年々子どもの数が減少していきますが、それでも学校には子どもたちが通ってきており、人材の宝庫だというように受け止めています。ですから、学校が学校だけではなくて、家庭、地域と連携して、子どもたちの心に残る教育を展開していこう、松崎の方たちも松崎の人や物の魅力をいっぱい浴びてシャワーのように浴びて、子ども時代の原風景が温かい、そういう学校生活をおくらせようということを学校と共有しております。

○２番（渡辺文彦君）　ぜひ教育長のおっしゃったような形で進められることを望んでおります。時間も終わりましたもので、とりあえず、この辺で終わりたいんですけれども、くれぐれも総合戦略の中で町民の意見が反映される形で、また、本当に活力のある町ができる形で進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。これにて終わらせていただきます。

○議長（稲葉昭宏君）　以上で渡辺文彦君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後　１時５４分）